

理想の音色を生み出す Xenoトロンボーン^{ゼノ}の最上位モデル

1 ベルと異なる素材の 拔差管(主管・F管)

イエローブラスベルの「YSL-825」はゴールドブラス、ゴールドブラスベルの「YSL-825G」はイエローブラスと、それぞれベルとは異なる素材を採用。ほかの楽器とも馴染みやすい、バランスのいい鳴りを実現している。

2 新形状の三点留め支柱

主管とF管をつなぐ支柱は、新形状の三点留めを採用。主管の響きを損なうことなくF管を支える設計で、開放感のある吹奏感と響きを生み出す。



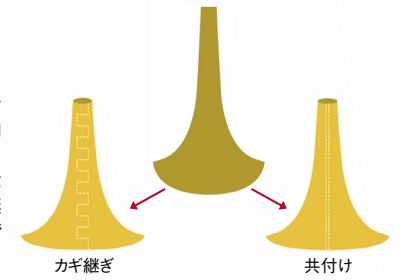
裏側から見た図

カギ継ぎ 一枚取りベル

ベルの振動が増強されることで、芯のある存在感のある音を、より遠くまで放つことができる。

一枚取りベルの 加工方法

イチヨウ形の金属板を丸めて接合し、職人がハンマーで叩いて成形する一枚取りベル。2種類の接合法があるが、より高い技術を要する「カギ継ぎ」は、比較的上位モデルで採用される傾向がある。



カギ継ぎ

共付け

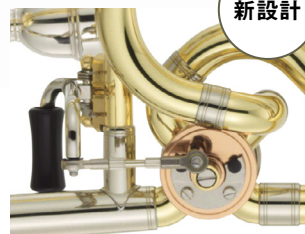
写真は「YSL-825」(イエローブラスベル)

主管拔差管

F管拔差管

3 新しい仕組みの レバーアクション

奏者の指先の力を的確に伝え、素早くかつ繊細に操作できるように設計。黒の樹脂カバーは、奏者の好みで着脱できる。



裏側から見た図

新設計

異素材から成る ロータリーバルブ

ケーシング(外枠)に真鍮、内部の軸受けにリン青銅と、異なる素材を使い分けた二体構造のバルブ。洋白+クリアラッカーのキャップとの相乗効果で、心地よい吹奏感を生む。



ケーシング

新設計

キャップ

シンプルながら、スライドの伸縮で音の高さを無段階に変えられるトロンボーン。さまざまな種類があるなか、多くの奏者が使っているのが、B^b管のテナートロンボーンに低音域を拡張するF管を取り付けたテナーバストロンボーン。バルブを切り替え、息がF管を迂回する

ことで調が変わる仕組みで、スライドを遠くに伸ばさなくても低音域を出すことができる。

2021年4月、世界のトッププレイヤーの協力を得てつくられるヤマハのカスタムトロンボーン「Xeno(ゼノ)」に、テナーバストロンボーン^{ゼノ}の最上位モデルが登場。読売日本交響楽団の首席奏者である

くわた あきら 栗田 晃 氏を開発協力プレイヤーに迎え、約10年の開発期間を要したもので、イエローブラスベルの「YSL-825」と、ゴールドブラスベルの「YSL-825G」の2モデル展開となる。

新モデルの特徴は、奏者の息を効率よく音につなげるフリーな吹奏感と、ホールの隅々まで届く芯

4 固定式の銀製マウスパイプ



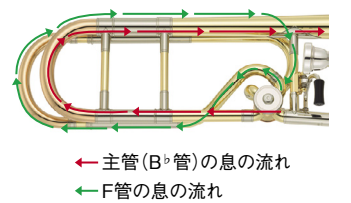
マウスパイプは、マウスピースを受ける(差す)ところにある。音の遠達性があり、存在感のある響きを生み出す銀製のものを固定式で装備。

ゴールドブラスのスライド外管

ゼノとして初めて、スライド外管にゴールドブラスを採用。音色変化の幅が広がることで、より繊細な表現が可能になった。

自然な吹奏感を生むF管の息の流れ

F管の息の流れは主管と逆方向なことが多いが、「YSL-825(G)」は同方向に流れるよう設計されている。さらにF管拔差管の、中管と外管の重なりを少なくすることで、よりスムーズな吹奏感が得られる。



← 主管(B^b管)の息の流れ
← F管の息の流れ

のある豊かな響き。ゼノ初となる素材の組み合わせなど、新しい発想が詰まった楽器となっている。「例えば、ベルと拔差管をあえて異なる素材の組み合わせにしています。一般的に、イエローブラスのベルは輪郭のはっきりした明るい音、ゴールドブラスのベルは包み込むような響きの柔らかい音が出

るとされますが、2つの素材を組み合わせることで、それぞれの特性をバランスよく生かした音、響きになっています」と、開発を担当する金剛明彦さん。息の流れを切り替えるロータリーバルブも、通常は一つの素材で一体型にするところを、異なる二つの素材による二体構造に。さ

らにキャップの素材、塗装との組み合わせによって、適度な抵抗感のある吹き心地を実現している。また特徴的なのが、ロータリーバルブに接続するF管の出入り口の構造。F管が入り組んでおり息の抵抗が強そうだが、主管(B^b管)を吹くときと同じ吹奏感で演奏できるという。